

にいかわ みと里 水と土 里と水 たより -ジュニア-

富山県
新川農林振興センター
農業農村整備
広報・広聴連絡会
〒937-0863
魚津市新宿10-7

お問い合わせは
0765(22)9137【指導課】

<水と土とは？>
水（みず）
：農業に使われる水
土（つち）：田んぼや畑
里（さと）
：農業と地域が一体と
なっけくらせる環境

特集 ひのなどうさん 椎名道三と ようすいろころじ 用水路工事

椎名道三ってどんな人！



しいなどうさん
椎名道三
しいなどうさんおうけんしょうひ
(椎名道三翁頭 彰碑公園にある銅像)

今から200年くらい前（江戸時代後半）、毎年おこる「ききん」（お米や野菜がとれなくて食糧がなくなる）のため、農民たちは、とてもまづしい生活をしていました。
「もつと田んぼや畑があれば、もつとたくさん食べられるのに...」
そのような時代に椎名道三は、新しく作る田畑のために、山おくにある谷から水をもつてくるための用水路をつくる工事をしました。

①初めての工事は17さい！

道三は1790年に滑川市に生まれました。そのあと住んでいた村（魚津市）のために水路を作り、約5ヘクタールの土地を田んぼにしました。

②とつても早い工事

道三は、農民を助けるために、たくさんのお金を使った工事を行いました。道三と農民は昼も夜も一生懸命働きました。道三はグループごとに場所を決めて工事を進め、早いグループに「ほうび」をあげたそうです。これもききんで苦しむ人を早く助けたいという気持ちからでした。道三は、富山県と石川県で1200ヘクタールもの田んぼや畑をつくったといわれています。

③すべてはまづしい人々のために

工事のお礼にもらったお金と土地は、すべて貧しい農民にあげたり、次の工事に使ったりしたの、道三はずつとびんぼうのままだったそうです。69さいの時に病気でなくなりました。



たいという気持ちからでした。道三は、富山県と石川県で1200ヘクタールもの田んぼや畑をつくったといわれています。



イラスト出典：富山県魚津農地林務事務所（2003）、十二貫野用水と椎名道三伝

〇もっと知りたい

副読本の紹介
椎名道三と十二貫野用水を紹介した冊子を当センターで作成しています。数冊お渡しできますので、ご連絡ください。



しいなどうさん 椎名道三が工事した用水路のしょうがい

むろやまのようすいろ 室山野用水路 (滑川市)

1803年から工事を始めましたが、失敗してしまいました。道三が工事をやりなおしたいとお願いして、1825年に工事を始めました。土しゃくずれが起これるころは、2000本の杭を打ち、13か所の岩のトンネルをほりました。1827年に約16キロメートルの水路を完成させました。



むろやまのようすいろ
室山野用水路がトンネルから出てくる場所

じゅうにかんのようすいろ 十二貫野用水路 (黒部市)

食べ物をめぐって死者やけが人が出る争いが起こったため、1837年加賀藩（今の石川県）は、道三に工事をお願いしました。そのころでは考えられない方法で、約28キロメートルの水路をたった15か月で完成させました。（1841年）



岩のトンネル



用水の取り入れ口

長い間使って、水路が傷んできたので国・県・市町・農家のお金を使い

トンネルなどに作りかえる工事を新川農林振興センターで行いました。



工事の様子

＜室山野用水路＞

工事期間：昭和57年～平成9年（15年間）
かかったお金：約20億円

＜十二貫野用水路＞

工事期間：昭和56年～平成16年（23年間）
かかったお金：約45億円

道三は約2年で工事をしているよ！
早いね！

田んぼにはたくさんのお水がたまっていくけど、田んぼの水はどこから来るのか知っているかな？
空から降ってくる雨だけでは、田んぼの水は足りないんだよ。
用水路をとつて田んぼにやってくるんだよ。
では、この用水路はだれが守っているのかな？
答えは農家のみなさんの集まり「土地改良区」だよ。土地改良区で、農業に使う水路や道路を修理したり、田んぼを大きくしたりしているよ。
（新川農林振興センターではそのお手伝いをしてるんだ。）
みんなが住んでいるところにも一つはあるから探してみてね！

土地改良区ってなんだろう？

もっと知ろう！ 農業用水の役わり

- ✓ お米などの作物を育てる
- ✓ 雪をとかす・流す
- ✓ 火事を消す
- ✓ 生き物のすみか
- ✓ 電気をおこす

みんなの生活の役に立っているよ



椎名道三たちがひらいた田んぼは今どのようなになっているかな!?

ほ場せいび について学ぼう!

多くの場所で、小さい田んぼをまとめて大きくしたり、道路を広くしたりする工事をしています。これを「ほ場せいび」といいます。



ため池にご用心

みなさんは「ため池」を知っていますか? ため池は雨が少ない地域で田んぼや畑に使う水をためておくために作られた大きな池のことです。新川地域(魚津市、滑川市、黒部市、入善町、朝日町)には、39ヶ所のため池があり、古いものでは江戸時代より前に作られたものもあります。

新川農林振興センターでは農家の人たちが安心してため池を使えるように、古くなったため池を作り直したり、ため池に人が落ちないように柵やかん板などを付けたっています。ため池の中は深くて足がつかないとすべって上がってこれません。ため池に近づいて、落ちないように注意してくださいね。



問題

どうして小さな田んぼをまとめて大きく作りかえるのでしょうか?

小さな田んぼの集まり



工事後の大きな田んぼ



答え

小さくて形がバラバラな田んぼを大きくすることで農作業をしやすくしています。

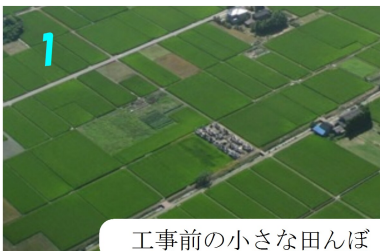
ほ場せいびの良いところ



- 田んぼを大きくすると、大きな機械で仕事ができるので作業時間をへらせます。
- 田んぼの中に水を吸いとるための管をうめることで、田んぼをかわかし、お米だけでなく、小麦や大豆、ネギなどたくさんのしゅるいの作物を作れるようになります。
- このおかげで田んぼをむだなく使え、耕作ほうき地(使われない田んぼや畑)をへらすことができます。



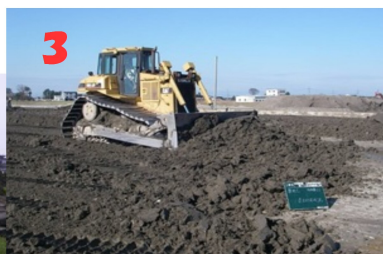
つぎ 次のように工事します



工事前の小さな田んぼ



それぞれの田んぼの土を取り一つの大きな地面に広げます



ブルドーザーを使って地面を平らにしています。



新しい水路や道路をつくります



1ヘクタールくらいの大きな田んぼができます

にいかわのうりんしんこう 新川農林振興センターのお仕事

新川農林振興センターは、新川地域(魚津市、滑川市、黒部市、入善町、朝日町)の農業や林業を守り育てるため、次のような仕事をしています。

農業用水路を作る・小さな田んぼを大きく作りかえる

お米などを育てるために必要な水を流す農業用水路を作っています。また、農作業を便利にするために、小さな田んぼを大きな田んぼにつくりかえています。

(上の記事を見てね!)

田んぼに水を配る農業用水



やる気ある担い手を育てる

農業や林業の「にない手」(農業や林業を行う人)が安定してお金をかせぐことができるよう手助けをしたり、新しく農林業の「にない手」になってくれる人を育てています。

こう水や土しゃくずれなどの災害をふせぐ

大雨によるこう水や土しゃくずれをふせぐため、水路やため池を直したり、土しゃが一度に流れ出ないようにする治山ダムを作っています。



治山ダム

農作物を作るお手伝い

安全でおいしいお米や高く売れる野菜や果物をつくるためのアドバイスなどを行っています。

森林を守り育てる

きれいな空気やおいしい水をつつてくれる森林を元気にするため、花粉をとばさないスギなどの木を植え、育てています。